

# 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより

第151号（平成30年度）

### 第68回長野県図書館大会駒ヶ根大会を終えて

図書館協会小中学校図書館部会 上伊那支部長

伊那市立富県小学校 青木 裕美恵

11月10日（土）に第68回長野県図書館大会が駒ヶ根市において、大会テーマ『地域と共に知り、共に創る』のもと開催されました。霜月の寒さが心配されましたが、当日は温かい日となり、早朝より県下各地を出発された総勢490名近いみなさんにお集まりいただきました。

午前中は駒ヶ根市文化会館大ホールにて開会式と講演会を行い、午後は赤穂中学校と駒ヶ根総合文化センターにて分科会をおこないました。

講演会では講師の姜 尚中先生に「漱石と司馬遼太郎の見た明治国家」の演題でお話いただきました。夏目漱石と司馬遼太郎を軸に、明治時代の「文明開化」の活気づいた時代を引き合いに、現代社会における「グローバル化」への私たちの向き合い方について話され、地域が活性化することにより文化が花開き潤いある社会が作れることや、地域を作る場としての図書館の意義・ローカル活動の大切さを話されました。講演会には大ホールいっぱいになるほどの、1000人近い方々にお越しいただき、みなさん熱心に聴講されていました。

午後は12の分科会が開かれました。小中学校図書館部会からは第3「いきいきとした学校図書館を創造する司書教諭の役割～学校司書との連携のあり方～」、第4「力をあわせて魅力ある図書館づくり～みんなとつながるサポーターとしての学校司書～」、第5「図書館の管理・運営のあり方～ソフト・ハード両面からの図書館づくり～」、第6「読書・学習センターとしての機能を推進するための取組」、第7「情報センターとしての機能を推進するための取組」の5つの分科会にてレポート発表や実践発表、グループ討議などが活発に行われました。また、魅力的な図書館にする工夫のための作品を持参された方もいらっしゃいました。いずれの分科会も、大変意欲的に聞き合い話し合い研修されている様子がありました。レポート発表者、司会者、記録者、助言者、世話係のみなさんには、準備や当日の進行、



ご助言など大変ご尽力いただきありがとうございました。

今回の図書館大会に向けて上伊那支部では実行委員会を組織し、県の大会企画運営委員会や小中学校図書館部会と連絡し合い、ご助言をいただきながら推進してまいりました。不慣れな面も多々ありましたが、各支部の支部長の皆様、小学校部会の幹事会のみなさん、長野県図書館協会の小林さん等多くの皆様のご協力をいただき開催することが出来ましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。そしてなにより、県下各地から南信の駒ヶ根市まで足をお運びいただいた参加者の皆様にお礼申し

あげます。この図書館大会で研修されたことを是非、各校の図書館教育で生かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、図書館や図書館教育のますますの充実とご発展をお祈り申しあげ、開催地上伊那支部からのお礼の言葉とさせていただきます。

## 第68回長野県図書館大会に参加して

箕輪町立箕輪東小学校 西村 敦子

中野市立永田小学校、飯山市立城北中学校の実践発表より多くのことを学びました。

- ・児童がわかりやすい具体的な目標、図書館で企画する活動には明確なねがいがある
- ・よみきかせの時間の内容が計画されている（プログラムがある）
- ・図書館の課題を明確にし、一つずつ取り組んでいく

(図書館単独ではなく学校全体に関わることなどは連携をして丁寧にすすめている)

- ・児童、生徒が活躍している
- ・図書館では常に新しい情報を提供している

今までの活動を思い返してみると、例えば読書旬間では旬間の大きなねらいはあっても、どのようにやるか、どのように先生方に協力をしてもらうか、という方法に多くの目が向いてしまっていたように思います。活動のねがいははっきりさせることで、係や先生方の準備の仕方や児童への紹介の仕方変わり、児童もその活動への意欲が高まっていくのではないかと思います。

グループ討議の中で司書の先生方が「その子にあった本を手渡したい。」「図書館には人がいることが大切。」と話されていました。助言者の依田学先生から「本を仲介とした子どもの笑顔がある。それは、先生方のおもいと工夫に支えられている。」「正しい学習のしかたを学ぶことは図書館だからできること。」そして、「チーム図書館」というお話をお聞きしました。学校全体がチームとして取り組んでいかれるように、司書の先生とたくさん話をして一緒に図書館を考え、図書館運営計画や年間指導計画を見直し来年度の計画を作成したいと考えています。

講演会講師姜尚中先生より「公共図書館が地域をつくるよりどころ」というお話をお聞きし、学校図書館の役割は大変大きいと改めて思いました。

## 自分を見つめ直す一日～第68回長野県図書館大会に参加して～

飯田市立鼎中学校 登内 恭平

現代において明治を語るの意味が「図書館」とどう結びつくのか…。姜尚中先生の講演を聞く前に思っていたこの思いは講演を聴くことで吹っ飛んだ。「当時欧米諸国の先進的な文明を明治国家がどう見たのか」を夏目漱石や司馬遼太郎の文章やその生涯から読み解く手法で、「グローバル化を現代の我々はどう乗り越えるのか」を明治国家論から考えることができるという視点がとても興味深かった。そこから引き出されるグローバルとはローカル化の中にあるという逆説的な結論には驚かされた。こうした講演内容から、私は本と向き合うことや古典に学ぶことの意義を感じた。そして、それを支えるのが図書館という文化施設なのかなと講演内容を私なりに味わいながら「咀嚼」していた。

また、午後の分科会では「情報センターとしての機能を推進するための取り組み」についてレポート発表を拝聴した。県内で活躍されている先生方の具体的な取り組みから、「子どもたち」と「本」をつなぐ具体的な手立てに先生方の図書館教育への熱い情熱を感じた。そして、「本」と「学習」をつなげる架け橋役となって機能的な役割を果たす図書館運営に先生方の忙しさを言い訳にしない努力がにじみ出ている。

そうした講演やレポート発表を聴くことで、私は「今まで何をしていたのだろう。もっとできることがあったはずだ…」と刺激を受けた。「まだまだ課題は山積している」と、今の図書館運営を嘆くばかりではいけないと思い、「本校ではどんなことができるのか。」と学校司書の先生とも話し合うことが増えた。もっと「読書センター」としての魅力が増す取り組みをしながら、「情報センター」としての図書館が身近になるためには…?やれることはたくさんありそうだ。今回の図書館大会に参加して受けた「刺激」を還元すべき場はやはり「図書館」しかないだろうと心新たにした一日だった。

# 第 41 回全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会に参加して

長野県図書館協会小中学校図書館部会長

長野市立浅川小学校 宮尾 弘子

第 41 回全国学校図書館研究大会が富山県にて開催されました。様々な立場で図書館教育に携わる方々の、貴重な情報提供の場となった大会でした。

以下、本紙面にてご報告いたします。

- 1 開催期日 8月8日(水) 9日(木) 10日(金)
- 2 開催地 富山県富山市(富山県民会館) 及び高岡市(ウイング・ウイング高岡)
- 3 大会テーマ 「これからの学校図書館をデザインする」

## 4 日 程

1 日目：開会式・全体会

記念講演 「本と日本語」 講師 金田一秀穂先生(言語学者)

分科会① ② 学校図書館等視察見学

2 日目：分科会③ ④ ⑤ ⑥

3 日目：分科会⑦ ⑧ 閉会式

## 5 概 要

本大会は分科会をメインとして構成された大会となっており、その数は138分科会に及んでいます。内容、形態ともに多岐に渉り、各学校の実践報告をはじめとして、人気作家角野栄子氏や写真家今森光彦氏の講演、文部科学省からの学校図書館施策の説明、国会図書館による実践報告、富山市の図書館視察等々が企画されました。

本紙面では、参加した分科会の中から、国立国会図書館の藤田千紘氏による「レファレンス協同データベース」に関する発表について報告申し上げたいと思います。

「レファレンス協同データベース」とは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物に役立つデータベースです。学校図書館は平成25年度から参加が可能となりました。藤田氏からはまず、レファ協の概要や活用法についてお話いただきました。

レファ協には、児童生徒の質問に対して、その児童生徒の年齢や状況、質問の意図を丁寧に汲んだ上でのレファレンス事例が登録されており、児童生徒の疑問から発する調べ学習の、より一層の充実が期待される内容となっています。また、各校の図書館の事例をレファ協に登録していけば、自校の記録の蓄積も容易になります。図書館活動のPRのツールとしても大いに利用できるとのことでした。

今まで市町村単位ほどに限られていた書籍、資料の共有化ですが、レファ協を介せば、全国規模でデータが集約され、より幅広く、より大量の資料の取得が可能になります。これからの学習・情報センターとしての学校図書館の役割の可能性の広がりを感じさせる発表でした。

インターネットを介する情報共有が主体であるが故に配慮すべき点はあると思いますが、興味深いシステムだと感じました。

富山での3日間はあっという間でした。これからの学校図書館の在り方を予見するための情報にあふれた有意義な大会でした。

## 地区学校図書館教育研究会から

北信地区

10月30日 飯山市立泉台小学校 飯山市立城北中学校

### 「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

飯水支部代表 飯山市立泉台小学校 竹田 肇

平成30年度「北信地区学校図書館教育研究会」は、10月30日（火）午後、飯山市立泉台小学校及び飯山市立城北中学校を会場として、以下のように開催されました。充実した研修の時間となりました。

#### 1 研究テーマ 「豊かな心を育てる図書館教育のあり方」

#### 2 公開授業・授業研究会

	授業学年・授業者	单元名	助言者
泉台小学校	小学校3年 田中史奈 教諭	「食べ物はかせになろう」 国語科	総合教育センター 専門主事 依田 学 魁
城北中学校	中学校2年 関口祐子 教諭	「昔の人のものの見方や考え方に触 れよう」国語科	北信教育事務所 指導主事 古旗 明 魁

#### 3 講演会 講師 長野県図書館協会副会長 林 尚江 先生

##### 演題 「これからの学びに学校図書館をどのように活用したらよいか」

北信地区の各学校から、学校図書館司書の皆さん、学級・教科担任の先生方など、小学校に31名、中学校に35名、講演会に76名の参加をいただきました。

公開授業については、「子どもたちの調べ学習が探求的であったように思います。それは、前時までの授業であったり、今日の授業の中での先生の声がけであったり（「えー、先生知らなかった。」など）、それが子どもたちの意欲につながっていたと思います。」「その子にとって写真がふんだんに使われた本が大変役立っていた。そのような本が準備されていたことがとても良かった。」「子どもたちが迷わずに調べられる量の本が用意されていて、積極的に本を活用して調べている姿が見られました。（うらやましいです。）何を調べるかという目的がはっきりしていたこととまとめやすいワークシートのおかげで、子どもたちは自分の調べたことをうまく整理していたと思います。」

（小学校）「城北スタイルで全職員が取り組んでいるという学習スタイルと図書館教育とが絶妙にミックスされていて、素晴らしい授業と研究だと思いました。」「ただ『図書館で調べよう』ではなく、司書の先生と協力して子どもたちが調べやすいようにしたり、ジグソー法を用いて、より多くの資料に目が向いたりできるようにする工夫があり、とても参考になった。」（中学校）などの感想をいただきました。

講演会講師の林先生からは、学校図書館そのものの歴史的経緯、目的、機能、これからの時代に学校図書館の果たすべき役割や可能性について、また、学校司書、司書教諭、担任の役割など、示唆に富んだお話をいただきました。先生が現在取り組んでいる子ども読書活動応援センターの様子や茅野市での取り組みについてもご紹介いただきました。参加された学校図書館や公立図書館の司書の先生方にも学ぶことの多い講演会だったと思います。

## 北信地区学校図書館教育研究会に参加して

飯山市立飯山小学校 小林 麻子

飯山市立泉台小学校3年生の授業を参観させていただきました。「食べ物はかせになろう」という単元で、子どもたちは調べたい食材を選び、「おいしく食べる工夫」や「その作り方」について本を使って調べ、マッピングに整理するという活動でした。学校図書館や市立図書館、市内の小学校などから借り受けした資料を複数冊使い、目次や索引などから目的の情報を見つけようとする子どもたちの姿から、今後必要とされる探究的な学びの力を感じました。

麦について調べていた子は、「麦は世界でいちばん多く育てられている作物」、とうもろこしについて調べていた子は「動物のえさになる」と、その他として違う色の付箋を使って書き足しをしていました。本来の「おいしく食べる工夫」や「作り方」を調べていくうち、思わぬ知識を得て、興味を持ったということでしょう。これこそ、本ならではの知的好奇心を満たす活動だと思いました。知りたい情報にピンポイントで到達できるインターネットとはまた違った魅力あるツールなのです。

林尚江先生の講演会では、これからの時代に学校図書館が果たすべき役割についてお話いただきました。子どもたちが自ら問いを考える、課題を設定することができるようになるために、普段から、生活や授業でわき出たミニ疑問を調べてみる等の、学習経験の積み重ねが大事であるという言葉に、あらためて図書館司書として自身の役割を考えさせられました。

## 北信地区学校図書館教育研究会（泉台小学校・城北中学校）

### に参加して

長野市立東部中学校 金子 政次

私は飯山市立城北中学校で行われた研究会（授業参観、講演会）に参加させていただきました。

授業は、国語科の古典学習単元で、本時は図書館での調査をもとに、グループで課題を追究する場面でした。城北中では「ジグソー法」という手だてを研究しています。これは、

- ①ベースとなる班（ジグソー班）で課題を確認し、調査分野の担当を分ける。
- ②他の班で同じ分野を分担された者同士が集まり、調査活動を行う（エキスパート班）。
- ③もとのジグソー班に戻り、持ち寄った分野の専門知識を出し合いながら協同して課題に対する答えを出していく。

という方法で、国語科のみならず、社会科や理科、家庭科等、多くの教科で実践しているとのことでした。

講師の北信教育事務所指導主事 古旗 明先生からも、『情報の信頼性』『情報の一覧性』という点で図書資料を重視している点に学びたい。」また、「ジグソー班やエキスパート班といった考え方は、様々な教科での図書館利用に資するものである。」と、ご指導いただきました。

その後の講演会では、長野県図書館協会副会長 茅野市こども読書活動応援センター 林 尚江 先生から、「これからの学びに学校図書館をどのように活用したらよいか」をテーマに、「コーディネーターとしての司書教諭」「学習支援者としての学校司書」「授業者としての担任」と、その役割について具体的にお話いただきました。それぞれの立場の違いが明確になり、大変勉強になりました。

## 「中信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

松本支部代表 松本市立菅野小学校 小沢 智子

平成30年度「中信地区学校図書館研究会」は、10月11日（木）に松本市立菅野小学校・菅野中学校を会場として以下のように開催され、充実した研修となりました。

### 1 テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」

### 2 公開授業・授業研究会

授業校	単 元 名	授業学年・授業者	助 言 者
菅野小	「むかしばなしがいっぱい」 (こくご)	小学校1年 上兼 恵理教諭	北信教育事務所指導主事 古旗 明 先生
	「椋鳩十作品のみりよくある表現を味わおう」 (国 語)	小学校5年 原田 実教諭	総合教育センター専門主事 依田 学 先生
菅野中	「将来ビジョンマップを作ろう」 (総合的な学習の時間)	中学校1年 森 祐子教諭	中信教育事務所指導主事 岡田 泰輔 先生
	☆図書を使う授業：7教室公開		

### 3 講 演

演題『学校図書館の活性化をめざして ～学ぶ・楽しむ・つなげる図書館活用～』

講師 藤田 利江先生（全国図書館協議会SLS）

### 4 参加者

小学校公開授業：75名 中学校公開授業：38名 講演会：125名

### 5 まとめ

中信地区より各学校の司書教諭・学校司書・図書館教育に関わる先生方にご参加いただき、学校図書館教育研究会を実施することができた。小学校では、1年生が毎週読み聞かせをしてくれている6年生に、昔話を1冊紹介しようというめあてをもち、ペアで昔話を読み、読書記録を蓄積。それを基に話し合い、理由をもって1冊を選ぶ授業を、第2図書館「おはなしの森」で行う。5年生は、『大造じいさんとガン』で、心情変化や情景描写の魅力や効果について学んだ。並行して他の椋作品を読み、友だち同士で魅力ある表現を伝え合い練り直し、ポップにして全校で紹介する授業を作品別グループで行う。中学校では、1年生のキャリア教育「将来ビジョンマップを作ろう」の導入で松本大学図書館司書の松島先生から図書館活用の方法やよさをお聴きし、個々に調べたいことを太陽チャートに記入し、調べ学習を進める授業を行う。また、他教室でも、図書を活用した授業を公開。特別教室にその教科に関連する図書館の本が別置されている様子も参観できた。参観者からは、「1年生が昔話のおもしろいところをたくさん書き出し、6年生に紹介す





る1冊を選んでいてすばらしい」(小1)「椋作品の魅力ある描写が同じ所を選んでいても感じ方が異なることを伝え合うことで子どもたちは自分の文を練り直す姿が見られた」(小5)「PCで調べる以上に図書を用いて調べるよさを生徒は感じていた」「太陽チャートは有効である」「他の教科でも図書を活用して自校でも実践していけたらよい」(中)等、たくさんの感想をいただいた。菅野小・中学校の今後の実践に繋げていきたい。

藤田利江先生の講演会では、講義と共にカードや新聞、ペアでの演習を織り交ぜながら元気になる研修となった。「ぜひ、学校へ持ち帰り先生方と共有して実践していきたい」「日頃なかなか実践できていない調べ学習を楽しみながら進めていきたい」等々の感想をいただき、好評であった。本年度半日開催としたが充実した研究会となった。



## 日々の授業に本を～中信地区図書館教育研究会に参加して～

松本市立明善中学校 佐々木 清一郎

菅野中学校の図書館は教室棟と特別教室棟を結ぶ連絡通路にあり、授業ごとに教室棟と特別教室棟を行ったり来たりする生徒にとっても利用しやすい場所にあります。菅野中学校では、そんな図書館を「学習センター」「情報センター」としてさらに利用しやすくするために、例えば、松本市図書館と連携してブックセットを導入し、学校にない図書と触れあう機会を設けたり、理科室に書架を設置して図書の別置を行ったりして、生徒がより主体的に図書に関わることができる環境づくりに取り組まれていました。

授業研究会では、参会者から「インターネットが普及する今、図書を利用するよさは何だと考えるか」という質問が出されました。確かにインターネットは簡便で、今の生徒にとって短時間で多くのことを調べられるアイテムです。しかし、菅野中学校の授業を参観して、図書にはインターネットにはない温かさや安心感があり、日々の授業にふさわしいコミュニケーションツールとなる可能性があると感じました。

1年生の総合的な学習の授業では、松本大学図書館司書の松本加奈先生から図書館を有効活用するコツを教わった生徒が、松本先生、担任の先生の見守る中で、自分が決めた職業について主体的に調べ学習を行っていました。授業の中で、自分が見つけた本を見せ合ったり、友達の本をのぞき込んで感想を述べ合ったりする姿が自然に生まれていました。

3年生の国語の授業では、前時で図書を活用して調べたことわざや慣用句、故事成語を用いてクイズを作り、グループで出し合っていました。机上にはクイズの元となった本が置かれていて、生徒同士の明るいやりとりが絶えない授業でした。

「日々の授業に本を」を授業づくりのテーマに掲げて研究をすすめてこられた菅野中学校の実践から、人と人を結ぶ「図書」や「図書館」のよさについて学びました。

## 中信地区学校図書館教育研究会に参加して

朝日村立朝日小学校 上條 正子

会場校の菅野小学校・菅野中学校では3つの授業公開がありましたが、私の参観した小学校1年生の国語「むかしばなしがいっぱい」の授業では、昔話を読んで紹介するにあたり、6年生を対象に理由をもって1冊の本を選ぶという実践が行われていました。工夫されたカードを有効的に使って考える子どもたちの姿が印象的で、また担任や司書の先生の今までの読み聞かせの積み重ねを感じ取ることができました。地元の画家の方の絵を見ながら図書館に入ると、本が面出しされている等、思わず手に取りたくなるような工夫がされていました。また絵本からお話の本への移行期に読むとよいと思われる本を集めた本棚があり、自分の学校の図書館づくりにぜひ生かしたいと思いました。ソフト面でも図書館教育の年間計画が、読書センターとしてのものと、学習・情報センターのものと2本立てで作成されていました。またそれぞれを活用するための手立ても明文化されており、とても参考になりました。

後半の藤田利江先生の講演では、ワークショップを交えながら特に学習・情報センターとしての図書館の活用について学習しました。調べ学習の基本である太陽チャートの書き方や新聞の活用について教えていただきました。図書館の学習・情報センターとしての機能はなかなか果たせない部分ですが、今回の研修を基にまずは調べ学習のために図書館を利用できるように、資料の充実から始めようと思いました。

幸い我が校は、学校全体で図書館を大切にしているので、司書として大変ありがたい限りですが、図書館をさらに活用してもらうために、蔵書の充実等環境整備はもちろん、司書教諭の先生との連携を今まで以上に保ち、また他の先生方に図書館の様々な可能性を発信して利用促進をはかることが重要だと改めて感じました。



部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第151号  
発行日 平成30年12月14日  
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内  
長野県図書館協会 小中学校図書館部会 (代表 宮尾弘子)

○イラスト使用 (いらすとや、わんぱく)